

安心安全で魅力ある京都づくりのための 治水・地域振興策の推進について

【担当省庁】国土交通省

[淀川水系]

- 淀川水系河川整備計画に基づき、河道掘削や堤防強化等の河川改修を更に推進していただきたい。
- 最優先の課題である桂川の治水安全度向上に向け、特に、一の井堰の流下能力の向上については、引き続き国・府・市協力のもと、現河川区域にとらわれず、また、井堰改築以外のあらゆる可能性を排除しない設計案を検討し、早期に着工していただきたい。
- ^{しなで}科手樋門（木津川）など、浸水実績を踏まえた樋門の新設・増強について、検討し実施していただきたい。
- ^{だいがわ}大戸川ダムについては、費用や効果を検証しつつ積極的に事業を進め、費用の縮減を徹底していただきたい。
- 淀川の舟運については、2025年大阪・関西万博を契機として、淀川沿川地域のにぎわいの創出を図るため、安定した航路の確保や、船着場等の整備をしていただきたい。

[由良川水系]

- 近年の豪雨災害の激甚化・頻発化に対応するため、本年8月に変更された由良川水系河川整備基本方針や、これまでの河川改修の進捗等を踏まえ、流域治水型の河川整備計画へ早期に変更し、切れ目なく対策を進めていただきたい。

【現状・課題等】

- 淀川三川で最も治水安全度が低い桂川の改修促進は喫緊の課題であり、特に嵐山地区の改修は、上流の府管理区間の改修にも大きく影響する。
- 嵐山地区の一の井堰の改築は、現在の堰管理者や景観等の専門家から意見聴取を行っており、意見を踏まえた設計案の具体化が必要である。一方、ステークホルダーが多く、調整は困難を極める状況であり、国において検討されている浸水被害軽減に向けた地下空間の活用も視野に早期の着工が必要である。
- 大戸川ダム建設事業については、本体工事などの着工に向け、調査などを行っている段階であり、費用縮減を徹底した設計を行う必要がある。
- 淀川の舟運については、水深不足により船の乗り換えが必要であることや、流れの急変により航行が不安定となる箇所が存在すること、岩場や粘土質の川岸での乗り降りが必要であることなどの課題があるため、安定した航路の確保や、沿川のかわまちづくり計画に基づく、船着場等の整備推進が必要である。
- 由良川水系については、変更された基本方針に基づき、地域住民や流域自治体の意見を聴きながら、早期に河川整備計画を変更し、ハード・ソフト一体の流域治水の取組を進める必要がある。

京都府 の担当課	建設交通部 河川課(075-414-5282)
-------------	-------------------------

【国の事業等】

■概算要求〔国土交通省〕

- ▶ 治水事業 11,509 億円（令和5年度予算 9,574 億円）

【京都府の被害状況】

■京都府の近年の浸水被害状況

		H24 府南部豪雨	H25 台風 18 号	H26 8 月豪雨	H29 台風 18 号	H29 台風 21 号	H30 7 月豪雨
被害 状況	床上浸水	906 棟	1,482 棟	1,835 棟	130 棟	335 棟	539 棟
	床下浸水	2,378 棟	3,326 棟	2,716 棟	1,119 棟	516 棟	1,734 棟
浸水被害発生 河川		弥陀次郎川(天井川)、古川、志津川、堂の川他	直轄由良川・桂川、安祥寺川、四宮川、堂の川、鴨川、桂川他	弘法川、法川、榎原川、大谷川、八田川	相長川、竹野川、小西川、福田川、新庄川、滝馬川、筒川他	直轄由良川、高野川	直轄由良川、高野川、伊佐津川、竹野川、佐濃谷川他

■内水による浸水状況

- ▶ 八幡市街地：床上浸水 30 戸、床下浸水 856 戸（平成 25 年台風第 18 号）
- ▶ 由良川沿川：床上浸水 215 戸、床下浸水 302 戸（平成 30 年 7 月豪雨）

■洪水時の河川の状況



平成 25 年台風第 18 号
桂川洪水状況（京都市嵐山）



平成 25 年台風第 18 号
由良川洪水状況（福知山市河守）